

米株急落、市場が不安を強めた背景と今後について

Insights from UBS Asset Management

ポイント

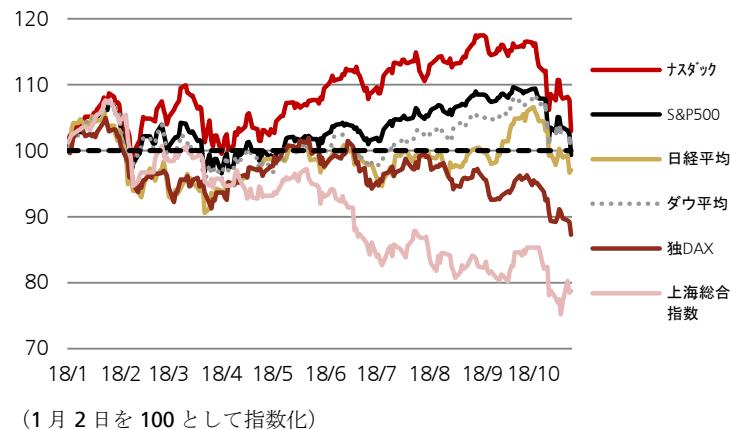
- ・米株式相場は様々なリスク要因が重なり急落し、ダウ平均及び S&P500 種株価指数は年初来の上げ幅を失う
- ・好調な四半期決算が続く一方、米中貿易摩擦の長期化や米金利上昇が世界の経済活動を停滞させるとの懸念が浮上
- ・当面、米国株は下値を探る展開が見込まれるが、金利、企業収益、バリュエーション等投資環境の改善が下支えへ

米国株式市場、大幅安の背景

- ✓ 10月 24 日の米株式相場は大幅続落となりました。米中貿易戦争や物価上昇で経済成長が抑制されるとの不安が広がる中、企業決算での弱気見通しや弱い米住宅指標などが引き金となり売りが加速しました。ダウ工業株 30 種平均の下げ幅は 600 ドルを超え、S&P500 種株価指数は 6営業日続落となり、両指数とも年初来の上げを失いました。特にハイテク株の下げが目立ち、NASDAQ 総合指数は 4.4% の大幅安となっています。投資家心理を測る指標である米株式相場の変動性指数 (VIX) は不安心理が高まった状態とされる 20 を上回り、一時 26 前後に上昇しました。相場の不安定な値動きを嫌気した売りも出た模様です。
- ✓ S&P500 種株価指数のセクターにおいては、コミュニケーション・サービスが 4.9% 安、情報技術が 4.4% 安となり、個別株では、今年、ほとんどの時期にわたり米国株の上昇に寄与してきた「FAANG」も終値ベースではフェイスブックが 5.4%、ネットフリックスは 9.4%、アマゾン・ドット・コムが 5.9%、アルファベットは 5.2% と 5% を超える下落となり、アップルも 3.4% 下げています。

■年初からの各株式指数の推移

(2018年 1月 2日～2018年 10月 24日)



出所：トムソン・ロイター

好調な四半期決算に潜む不安の種

- ✓ 23日に発表した四半期決算で、建機のキャタピラーや事務用品・工業製品のスリーエム (3M) が鉄鋼関税や中国需要減の影響を受けるとの見通しを示し、米中貿易摩擦の長期化が想定以上に世界の経済活動を停滞させるとの懸念が強まり、24日には四半期決算と併せて需要に慎重な見通しを示したテキサス・インスツルメンツ (TI) の大幅安が引き金となり、半導体関連にも売りが広がりました。

- ✓ 第3四半期の米企業決算は、10月19日までにS&P500採用銘柄のうち2割弱が発表を終えています。一株当たり利益（EPS）が予想を上回った企業は76%を超えておりポジティブ・サプライズが高水準であった一方で、売上高が予想を上回った企業は58%となっています。24日にはマイクロソフトやボーイングなど市場の予想を上回る決算もありましたが、指数への影響は限定的でした。複数の米グローバル企業の決算で米国以外での不安が指摘される中、市場参加者は、足元の国内の好景気や好決算より、「米中貿易戦争・中国景気減速・大幅なドル高」など海外要因による業績悪化を意識し始めています。
- ✓ その他、①「FRBの利上げ継続」による悪影響が米9月新築住宅販売の予想比下振れ（前月比-5.5%）であらためて認識されたこと、②「ユーロ圏の景気減速」がユーロ圏10月PMI速報値の予想以上の悪化によって印象付けられたこと（製造業は52.1、サービス部門は53.3、総合は52.7に低下）、③「イタリアの財政問題」で難しい情勢が続いていること、④「記者殺害事件をうけた対サウジアラビア経済制裁」が米議会の意向から現実味を帯びるなど中東の地政学リスクが意識されたこと、⑤「米中間選挙」が迫る中、オバマ、クリントン夫妻宅に不審物が届いたことや民主党が下院で過半数を占めた場合の大統領弾劾訴追リスクの浮上など、懸念材料が重なる形で重石となっています。
- ✓ 24日の米10年債利回りは3.1%へ低下しており、株式に支援的な金利水準になりつつあります。長期金利と歩調を合わせて上昇してきた原油価格の変調も追い風です。原油市場では、中東での混乱にも関わらず、世界経済の減速見込みや在庫増を背景に調整色が強まっています。
- ✓ 加えて、第3四半期決算においては先行き不安が浮上している一方、一株当たり利益（EPS）は+23～24%程度の伸びが見込まれています。成長率は、第1四半期（+25.4%）、第2四半期（+25.3%）と遜色ない勢いで伸びています。米国企業の業績が大幅に伸びている中で、株式市場が弱気相場入りする展開には違和感があります。株式バリュエーションも足元の株価の調整で過去5年の平均よりむしろ安い水準まで下がっており、米国株がこのまま一方的に下落を続ける可能性は低いと見ています。

■今後の注目材料

主な米決算予定

10月25日 インテル、ビザ、アマゾン、ツイッター
 10月26日 アルファベット
 11月1日 アップル

政治・金融イベント予定

11月6日 米中間選挙の投票日
 11月7-8日 米FOMC開催
 11月30日～12月1日 G20開催
 (ブエノスアイレス、米中首脳会談予定)
 12月18-19日 米FOMC開催
 (利上げ実施の見込み)

当面は調整が続くと見られるが、投資環境に変化も

- ✓ 上記した様々なリスク要因が重なったことで、投資マインドの回復には時間がかかると見られています。一方で、株価の重石と見られていた米金利の上昇は、10年債利回りが3.2%を超えて上昇するシナリオが足元の株安により急速に後退しています。

上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。上記個別銘柄は、あくまで理解を深めていただく為に例示したものであり、いかなる銘柄の売買等を推奨するものではありません。

商号： UBSアセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第412号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとにUBSアセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2018. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。